

生徒と教師がともに考える情報モラル教育の提案

初任校5年間で生徒と共に学んで見えてきた情報モラル教育の方向性について

神奈川県立茅ヶ崎西浜高等学校 鎌田 高德

情報の授業で生徒に身近な SNS を題材に情報モラル教育を行ってきた。しかし、情報モラル教育は情報の教師だけが行うのではなく、学校内の教師が一丸となり取り組むことが望ましいが、すべての教師が SNS に精通している訳ではない。そこで生徒たちが教師に対し SNS に関するアンケートを行い、そのデータを基に生徒たちの SNS 利用実態について教師に伝え、教師はその内容についてコメントする、学校全体で情報モラルを考える授業を提案する。

1. はじめに

教科“情報”では情報モラルを必然的に指導することになっている。教科“情報”の現行の学習指導要領において、“社会と情報”では「情報化社会の課題と情報モラル」、「情報の科学」では「情報技術の進展と情報モラル」を指導することが明記されている。また次の学習指導要領では、新しい教科“情報”の新科目のイメージとして、「情報と情報技術を問題の発見と解決に活用するための科学的な考え方を育成する科目」と位置づけられているが、そこでも「情報化社会の発展と情報モラル」という単元が盛り込まれている。さらに、情報モラルに関しては、新たな公民科目等で扱うことを検討されており、教科“情報”の枠組みを越えようとしている。

1.1 これまで行ってきた情報モラル教育

著者は、神奈川県立川崎高等学校で5年間、現在の勤務校にて生徒たちと共に、以下の表1の情報モラルに関する授業を作ってきた。

表1 身近な題材で行ってきた情報モラルの授業

題 材	内 容
Web アンケートのデータを題材にした授業	情報モラルについてのアンケートデータを集計・分析・発表する
LINE の既読無視を題材にした授業	LINE の既読無視の実態調査と既読無視の基準について考える
歩きスマホを題材にした授業	The Invisible Gorilla の映像をもとに歩きスマホについて考える

これらの授業は、生徒たちにとって身近な題材をもとに情報モラルについて考える授業を行った。理由としては、情報モラル教育において、教材に

掲載されているケーススタディを元に学習しようとしても、生徒たちにとって自分たちから遠い事例や出来事のように捉えてしまい、あまり効果がないと感じたからである。それよりも、生徒同士で考えやすく、かつ生徒たちの間で今こそ取り上げるべきタイムリーな SNS を題材に授業を行ってきた。

その一方で1つの疑問も浮かんできた。なぜ情報の先生のみが生徒たちと向き合い情報モラル教育を一手に引き受け、対応しているのだろうか。例えば学校の校内にて「自転車の2人乗りをする生徒」を見つけた時、生徒指導の先生のみが指導するのではなく、他の先生方も同じように見つけた人が指導するのが当然である。情報モラル教育も教員が一丸となり対応するのが望ましいが、すべての教員が SNS に精通している訳ではないという問題点があるのではないかと考えている。

1.2 教員向け「高校生による SNS 講座」

そうした中、平成26年8月15日に行われた「かながわハイスクール議会2014」の政策提言に基づき、神奈川県の24名の高校生が講師となって、教員を対象とした SNS 講座が平成27年3月26日に神奈川県の総合教育センターにて実施された。児童・生徒はネットいじめや犯罪に巻き込まれるなど、トラブルが多発しているが、教職員が SNS の新しいツールを使わないため、児童・生徒の実態を把握できない。こうした問題点を解消すべく、高校生が講師となり SNS 講座を実施した。その中のワークショップでは、LINE 外し体験などを盛り込まれていた。講座の最後に、教職員に向けて彼らは以下のような提言を行っている。

- ・先生たちに SNS に興味を持って欲しい
- ・SNS の相談に乗れるようになって欲しい
- ・一緒に SNS の楽しい使い方について考えて欲しい

2. 生徒と教師がともに考えるには

こうした流れを受けて、生徒と教師がともに考える情報モラル教育がないか模索し、生徒と教師の間のインタラクションを重視した「先生たちに SNS を教えよう」というテーマで、図1の以下のような流れの授業を初任校の最後に授業にて実施した。

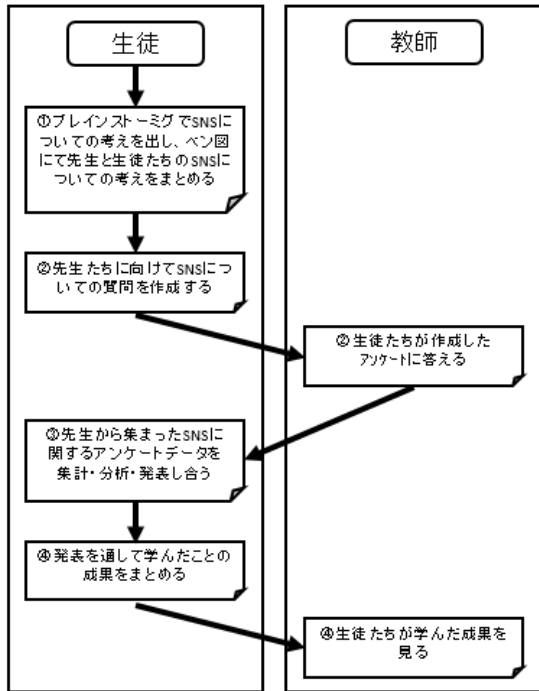


図1 実践した授業の流れ

- ① SNS について生徒たちが思いつくことをブレインストーミングで出し、付箋紙に書き込む。出た付箋紙をペン図（生徒たちがよく知っていること、先生たちがよく知っていること）の位置を踏まえてグルーピングし、まとめ、両者を繋ぐ手立てを考える。
- ② 生徒たちで考えた、先生に向けて SNS について質問を作成する。
- ③ 教職員から SNS に関するアンケートデータを集計・分析・発表し合う。
- ④ 生徒たちが学んだ成果を先生に報告。

これまで著者が行ってきた SNS を題材にした情報モラルの授業では、Web アンケートの対象は生徒の枠組みだけで行われた授業ではあった。そこで Web アンケートの対象に教師を加えることで、教師からもデータを集め、先生たちが SNS についてどのように感じているか明らかにし、その上で先生たちに自分たちの SNS の利用実態を伝えることで、生徒たちの実態を知って貰い、学校全体で情報モラル教育について考えるきっかけになることをねらいとした。

3. まとめと課題

生徒たちが実施した①の過程より、生徒たちが考えた、生徒たちと先生たちの SNS についての概念が図2の以下のようになっていると考えることが分かった。

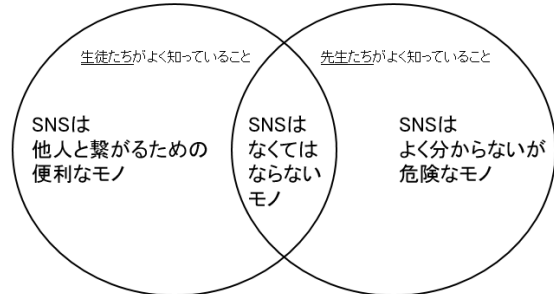


図2 生徒らが考えた生徒と先生の SNS の概念

生徒たちは自分たちの SNS についての考えをベン図でまとめることを通して、生徒と先生たちの考え方のギャップを明確にし、SNS に対する認識の違いがお互いの問題点だと気づいていた。

続けて②と③の過程では、生徒たちは先生たちが SNS についてどのように考えているか Web アンケートを作成し、集計・分析・発表し合った。アンケートの中には、生徒が「先生たちは SNS の発展に伴った生徒のコミュニケーション能力の低下についてどう思っていますか？」という質問をしたのに対して、先生から「逆に低下したと思うのは何故ですか？」と逆質問され、そのことについて調べ発表した生徒もいた。

課題として、④の部分十分に機能しなかった問題点があった。生徒たちが学んだ内容をプリントだけで伝えたが、発表や講義形式で教師に高校生による SNS 講座のように伝えられるのが理想であると考えている。

紙面の都合上、内容的なことに十分触れられていないが、当日の発表で補足していきたい。

引用・参考サイト

- (1) 第7回 全国高等学校情報教育研究会全国大会 自給自足の情報モラル教育（問題解決型情報モラル指導）、神奈川県立川崎高等学校、鎌田高徳（2014年）
- (2) 第6回 全国高等学校情報教育研究会全国大会 圧倒的に普及する LINE と高校生の個人情報、神奈川県立麻生総合高校、大石智広（2013年）
- (3) 錯覚の科学、クリストファー・チャブリス、（2011年）
- (4) 神奈川県 教員向け「高校生による SNS 講座」
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f531404/>